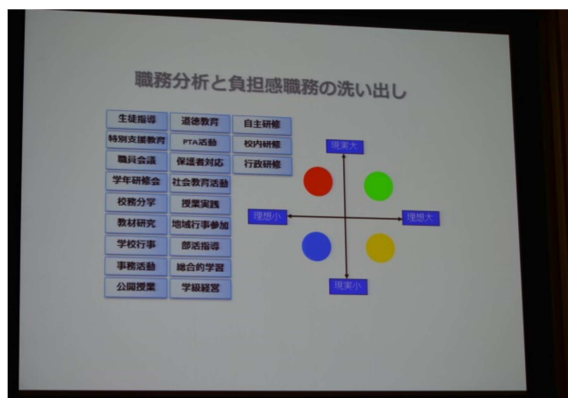


平成28年度学校改革シンポジウムを開催しました！

平成29年1月20日（金）にホテル熊本テルサにおいて、平成28年度学校改革シンポジウムを開催しました。

当日は、250名の教育関係者に御参加いただき、宮尾千加子熊本県教育長による主催者挨拶のあと、愛媛大学大学院教授 露口 健司 氏から学校の業務改善と組織づくりに関する御講演をいただきました。その後、休憩を挟み、学校の課題解決に組織的に取り組んでいる事例として、玉名市立玉名中学校と熊本県立翔陽高等学校から発表していただきました。

【講演】



「学校の業務改善と継続できる組織づくり」
愛媛大学大学院教授 露口 健司 氏

【事例発表①】



玉名市立玉名中学校
教頭 杉森 正彦 氏

【事例発表②】



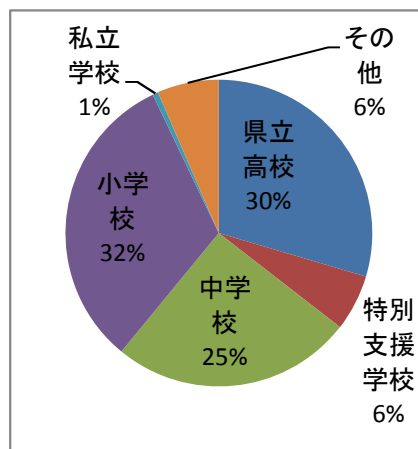
熊本県立翔陽高等学校
主幹教諭 緒方 宏樹 氏

平成28年度学校改革シンポジウムアンケート集計

1 参加者について

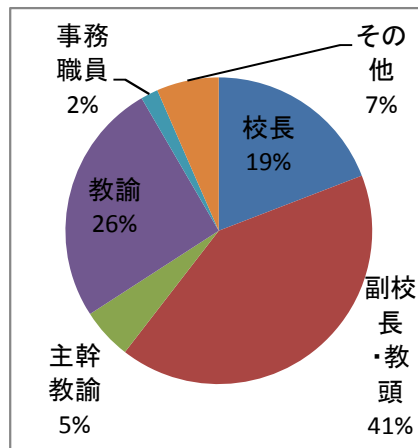
(1) 校種等

県立高校	特別支援学校	中学校	小学校	私立学校	その他
50	10	43	54	1	11



(3) 職種

校長	副校長・教頭	主幹教諭	教諭	事務職員	その他
32	69	9	43	3	11

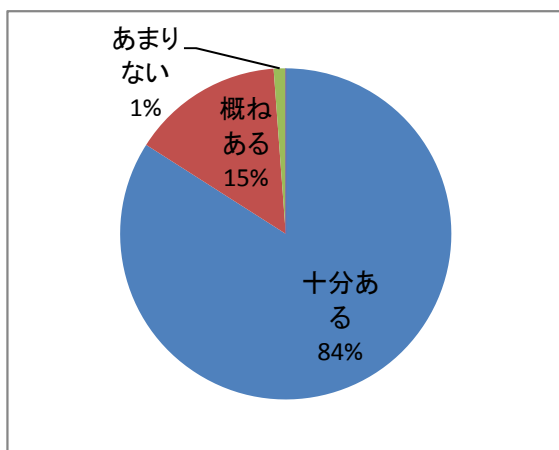


2 本日の成果報告会について

(1) 【講演】「学校の業務改善と継続できる組織づくり」

〈有用感〉

十分ある	概ねある	あまりない	ない
142	25	2	0



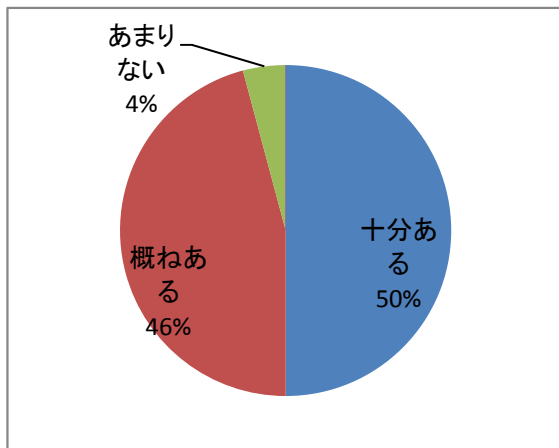
〈意見・要望・感想等〉

- 具体的な数値データを利用しながら、非常に興味深い講演であった。幸福感をもたらすリーダーを目指したい。
- 先生方の幸福感が子どもを変え、保護者を変える。リーダーの意識、ふるまいで職員室の雰囲気が変わる。ポジティブワーク、幸福感をもてるチームワークで頑張りたいと思いました。
- 管理職として誰かのため（幸福のため）にリーダーシップを発揮することが負担感の軽減につながっていくと感じた。また、ビジョンを明確にすることで、やるべき内容がはっきりし、やりがいにつながっていき、さらに、コミュニケーションや協働作業を通してつながり感、幸福感が増すと思う。
- つながりと幸福感の関係性が様々なデータから明らかにされ、とても分かりやすい内容でした。デビルリーダーとならないよう、注意を払いたと思います。
- つながりの大切さを改めて感じ、現実の校内の事例と重ね合わせられることも多々あり、納得できた。ウェルビーイングリーダーを増やしていくことが学校力や教育に携わる人々の幸福感を増すと思った。

(2) 【事例発表①】玉名市立玉名中学校

〈有用感〉

十分ある	概ねある	あまりない	ない
84	77	7	0



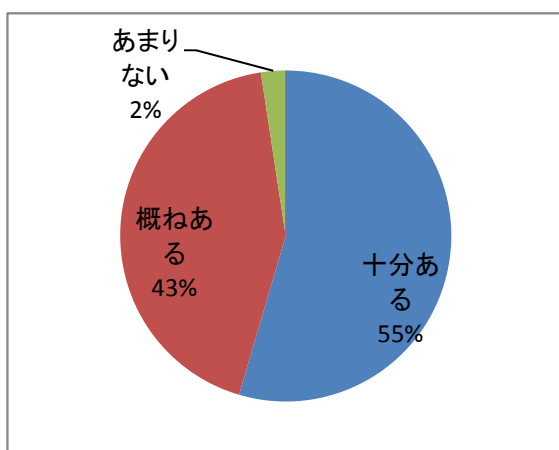
〈意見・要望・感想等〉

- ランチミーティングや学校運営協議会に生徒会を参加させるなど、生徒主体の教育を実現させるために行った具体的実践が参考になった。何より教育目標と生徒会の目標をリンクさせて活動していくことが大切だと思った。
- ビジョンの共有が職員、生徒（会）で図られることで、学校としても強みになっていると感じた。
- 「生徒とともに、職員とともに」の原点にたちかえり、4月からとかではなく、年度途中から少しずつ改革にとりくまれたのが、すばらしいと思った。
- 本校でも行っているが、SWOT分析は学校課題を洗い出し、取り組む順序性もわかり、大変有意義な方法であると再確認できた。
- 生徒会を中心とした学校改革の取組はとても新鮮で参考になった。子どもの可能性を信じ伸ばす取組でしっかり進めていくための策を本校でも取り入れていきたい。
- 「生徒会との協働の学校改革」の中で生徒のよさが発揮され、自信につながり、更に主体性が育っていくのだろうと思いました。このサイクルがまわり出すとすてきな学校になるのだろうと感じます。

(3) 【事例発表②】熊本県立翔陽高等学校

〈有用感〉

十分ある	概ねある	あまりない	ない
90	71	4	0



〈意見・要望・感想等〉

- 押し付けるものではないところのトップダウンとボトムアップの取組の融合がより活発な学校改革につながっていると思った。先生同士のよい雰囲気生まれているのも取組の成果の1つであると感じた。
- 目的を明確にした学校改革であり、職員が協働しながら進めているところがとても共感できた。トップダウンだけでなくボトムアップで進行しているところが素晴らしい。
- 校長のビジョンを明確に示し、若手教員のアイデアを生かした学校改革の推進は、とても参考になりました。幅広い視点で人材育成を進めたいと思います。
- トップダウンで一人一分掌や、行事や業務の見直しをはかるとともに、ボトムアップで人材育成を図る点が勉強になった。
- 職員の仕事を一分掌制にすることで、均一にすることは望ましい。学校改革と同時に人材育成（若手）を実施していくやり方は参考になった。
- 課題が多い中での取組だったと思うが、1つ1つを丁寧に行われている様子が伺えた。長期的な展望に立った取組の視点等、参考にしたい。

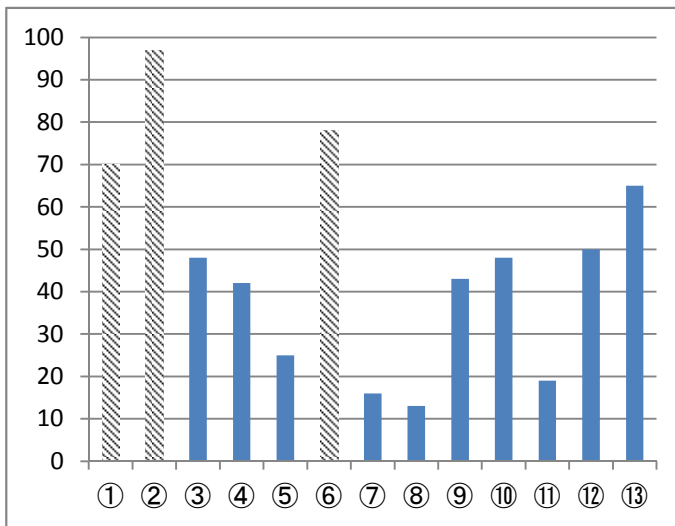
3 学校改革の取組について

[選択肢]

- ①教職員の勤務状況の把握と分析 ②業務縮減に対する明確なビジョン（KPI）の打ち出し
 ③ワークショップによる課題抽出と共有 ④育成面談の活用による業務改善の目標設定と進捗管理
 ⑤事務職員の役割の明確化と学校運営への参画 ⑥部活動の見直し（休養日の徹底、大会運営等）
 ⑦学校給食費等徴収業務の見直し ⑧事務の共同実施 ⑨指導要録等の電子化や簡素化
 ⑩校務支援システムの導入 ⑪校長人事評価における業務改善等の取組評価
 ⑫業務改善に関する研修 ⑬業務改善を推進する組織体制整備 ⑭その他（ ）

(1) 学校現場における様々な教育課題（次期学習指導要領や防災教育への対応等）について、対応する時間を作り出すためにどのような取組が必要だと思いますか。（複数選択可）

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
70	97	48	42	25	78	16	13	43	48	19	50	65

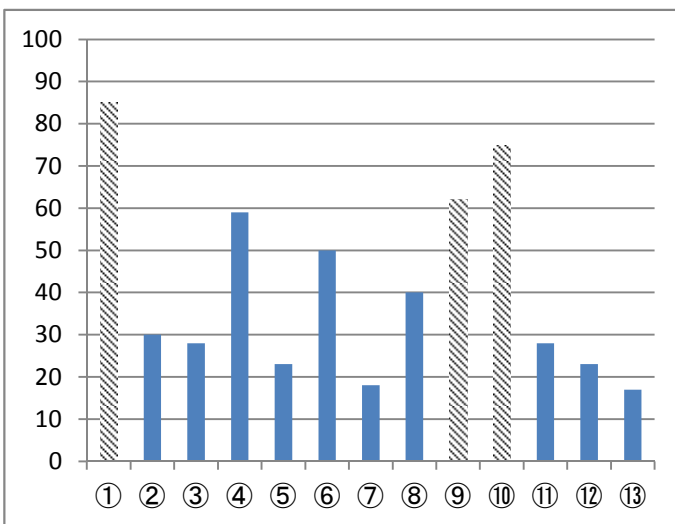


⑭その他の記述内容（一部抜粋）

- 全職員の意識改革と業務整理（見直し）
- 教職員定数の改善または学校課題に応じた加配
- 学級担任の集金業務・会計報告等・口座引落し、一括管理ができれば、それだけでも大幅な負担軽減になると日々思っているが、現実には厳しい。
- モジュール学習
- 業務の精選、役割の公平な分担
- 委員会と削減、校務分掌の精選と会議を減らす。
- 授業日数増と授業日研修（出張）の削減

(2) 所属校で実践しているものがあれば教えてください。（複数選択可）

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
85	30	28	59	23	50	18	40	62	75	28	23	17



⑭その他の記述内容（一部抜粋）

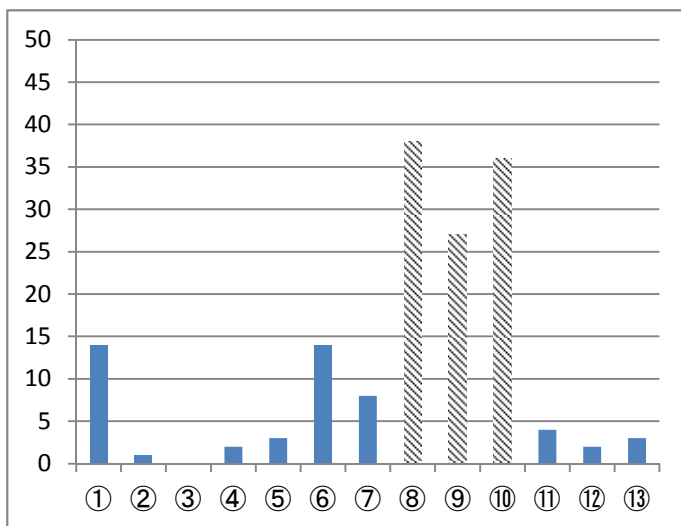
- 授業づくりにおいて、校内統一事項を設定し、共通実践・定着を図っている。
- 通知表の電子化→ファイル形式に変更
- 現在、実践という所まで達していない。
- 行事の削減
- 生徒と向き合う時間＝授業として授業力向上、指導法の工夫改善に努めている。
- 職員朝会をカットし、朝から生徒と向き合う時間を確保
- 生徒会活動を学校改革の柱とした実践（授業研に生徒参加、ワークショップによる熟議など）

[選択肢]

- ①教職員の勤務状況の把握と分析 ②業務縮減に対する明確なビジョン（KPI）の打ち出し
 ③ワークショップによる課題抽出と共有 ④育成面談の活用による業務改善の目標設定と進捗管理
 ⑤事務職員の役割の明確化と学校運営への参画 ⑥部活動の見直し（休養日の徹底、大会運営等）
 ⑦学校給食費等徴収業務の見直し ⑧事務の共同実施 ⑨指導要録等の電子化や簡素化
 ⑩校務支援システムの導入 ⑪校長人事評価における業務改善等の取組評価
 ⑫業務改善に関する研修 ⑬業務改善を推進する組織体制整備 ⑭その他（ ）

(3) 義務制の学校にお尋ねします。市町村教育委員会と連携して取り組んでいる事項があれば教えてください。（複数選択可）

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
14	1	0	2	3	14	8	38	27	36	4	2	3



⑭その他の記述内容（一部抜粋）

- 小中連携した学力向上対策
- 小中一貫連携教育
- 行政のサポートはあまり感じられない。
- 授業日数増
- 地域未来塾…地域人材を活用し、塾に通っていない生徒への学習指導
- 家庭支援（市子育て支援室との連携）
- 熊本版、上天草版CSの取組

ご意見、ご要望等

- 講演会では元気が伝わってきました。実践事例は参考になる内容が沢山ありました。
- 今後も学校改革シンポジウムを継続してほしい。
- 課外と部活の時間を減らす。
- 実践事例を数多く知りたい。
- 校種別、規模別等の研修があれば、ありがたいです。
- 講演の質問にありました、人と関わるのが難しい（ストレスとなる）特性のある児童生徒については、一人一人に応じた自己の肯定感を高めることが大切だと日々感じています。本人なりの方法で繋がりを感じ、成長して欲しいと思います。
- 教職員一人一人が主体的に改革を行うことが必要。「管理職にやってもらう」という意識では進まない。
- 小学校の英語科導入による授業時数の確保をどうするか。
- 今後も先進的取組をされている学校の実践発表をお願いします。
- 県教委等から発出される諸調査をより精選し、数を減らしたり、3年周期で実施するなど、配慮していただきたい。文書の多さは改善されていない。
- 現場の改革と合わせて、教育行政の方でも調査の削減等、今後もよろしく願い致します。
- とても参考になりました。機会があれば同じ校種の実践発表も聞いてみたいです。自分の学校でできるところから取り組んでいきたいです。
- 話す方が笑顔だと聞くほうも笑顔になると感じました。このことは教室でも同じことだと思います。さわやかな笑顔で頑張りたいと思います。
- 今年度当初は学校改革の方向性をもってスタートしましたが、熊本地震による想定外の対応が多く、実行に至りませんでした。現状から考えられる改革に改めて取り組みたいと思います。